

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



視点②

外部人材・地域資源等を
活用した単元づくり
～SDGs の視点を生かして～
第3学年・第5学年

第3学年 ESDカレンダー

教科領域	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
国語		本を使って調べよう	ざいりょうを集めて ほうこくする文章を書こう					食べ物のひみつを 教えます		ありの行列	コンピュータの ローマ字入力	
社会		わたしたちのまちのようす (1) 学校のまわりのようす (2) 杉並区のようす					農家の仕事					
算数			表と棒グラフ									
理科	しぜんのかんさつをしよう 植物をそだてよう (1)		昆虫をそだてよう			動物のすみかを しらべよう	植物をそだてよう (2)			ものの重さを しらべよう		
音楽												
図工					ヤゴがかえたよ		トンボの やじろべえ			虫さんランド		
体育												
外国語 活動												
総合的な 学習の 時間	しぜんとともにくらそう こん虫についてしらべよう 土の中の生き物についてしらべよう 身近な鳥についてしらべよう											
特別の 教科 道徳	ヌチヌグスージ (いのちのまつり)	ツバメの 赤ちゃん				ホタルの 引っこし	いただいた いのち	千羽のツル		おじいちゃん、おばあちゃん、 見ていてね	ふるさと いいとこさがし	
特別 活動												
行事												

第 3 学年
総合的な学習の時間

自然とともにくらそう

平成 30 年 9 月 19 日(水) 第5校時
杉並区立西田小学校 第 3 学年 1 組 29 名
授業者／佐々木 哲弥

単元目標

- 身近な生き物に興味をもち、進んで調べ、飼育し、観察することを通してその多様性の中で互に関わり合いの中で暮らしていることに気付くことができる。
- 身近な生き物の生息に適した環境について考え、自ら計画を立て、持続可能な西田の環境づくりに取り組むことができる。

児童の実態

- ①価値観について
児童は、1 学期に「身近な生き物はどうのような暮らしをしているのか」という課題をもち、たくさんの生き物に親しんできた。今後は生き物に対する興味や関心から、各自の選んだ生き物との関わりを通して、生き物の多様性と共通性、相互性や生態系の初歩的な仕組みの理解、生命の尊重等についての価値観を広げていきたい。
- ②「考える」について
児童は、与えられた課題に対して、意欲的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を設定し、主体的に考えることに対して、経験が不足している。そこで、本単元を通して、課題を自ら設定し、具体的な生き物との関わりから解決に向けて考え、行動する姿を目指していきたい。

単元観

本単元は SDGs の 15「陸の豊かさを守ろう」に関連させて単元構成を行った。また本単元を通して児童の生物の多様性と相互性に関する価値観を広げていきたい。そのために、3 学年は地域との連携により単元づくりを行った。特に、すぎなみ環境ネットワークとの連携では、年度当初の学習計画作成への協力により継続的・専門的な取り組みを行うことができた。特に 1 学期は理科「昆虫をそだてよう」との関連から、ヤゴ救出大作戦・ヤゴトープづくり、ヤンマお誘いセット設置等を行った。またヤゴ以外にも、カイコ、モンシロチョウ、その他の生き物（バッタ、ダンゴムシ、ムカデ、カメムシ、ナメクジ等）の観察と飼育に取り組んだ。その中で、身近な生き物には共通性（昆虫の体のつくりや成長の様子）と多様性（食べ物による口の形の違い、昆虫と節足動物との体のつくりの違い等）があることについて体験的に学んできた。児童は事象を個別に見る傾向（ヤゴはアカムシ、カイコはクワを食べる等）が強いいため、共通性や一般化して考える力を今後育てていきたい。また、自然との関わりの中で、自然は「大切なもの」「守らなければいけないもの」という考えをもつことができている。今後はさらに、なぜ「大切」なのか、「守らなければならない」のかについて考えを深めていきたい。

そこで 2 学期からは自然を守り、良い環境を作っていくための活動を通して、多様性と相互性に関する価値観を広げることができるよう指導を工夫した。具体的には単元の始めに児童の視野をより広げ、深めることをねらい土壌生物の観察を行った。その後、それぞれの関心の中で選んだ生き物のすみかづくりを通して、児童の多様性と相互性に対する価値観を更に広げていく。単元を通して、私たちの生活の豊かさは生き物の多様性と相互性の中で支えられ、成り立っていることを、生き物との直接的・体験的な関わりの中で気付かせていきたい。

評価規準（ESD の観点から）

学習過程	観点	評価規準	
		身近な自然環境に対する行動	地域の自然環境のつながりに対する理解
課題の設定	身の回りの事象に興味・関心をもつ力	①学校の中の生き物を興味をもって見付けることができる。	②地域の生き物の暮らしに視点を広げ、身近な野鳥の暮らしに興味関心をもつことができる。
	課題を見付ける力	②すぎなみ環境ネットワークの方にトンボの生態について聞き、西田小のプール環境について理解することができる。 ③身近な生き物に関心をもち、問いをもつことができる。 ⑬これまでの取り組みを振り返ることができる。 ⑭校内の土の中の生き物を観察し、たくさんの生き物の関わりにより生き物が暮らしていることに気付くことができる。 ⑮自分たちにできることについて考えることができる。	④身近な野鳥の暮らしについて調べ課題をもつことができる。
	課題解決のための計画を立てる力	④生き物がすみ環境について調べるための学習の計画を立てることができる。 ⑯生き物がよりよく暮らせるようにするために学習の計画を立てる。	⑤身近な野鳥の暮らしと私たちの生活との関わりについて、課題を解決するための計画を立てることができる。
情報の収集	目的に応じて情報を収集する力	⑤選んだ昆虫のすみ環境について観察や図鑑等を活用し、調べることができる。 ⑥ヤゴ救出大作戦を行い、生息数や種類を調べる。 ⑦ヤゴなどを育成し、生態を観察・記録することができる。 ⑦校内の生き物について自分たちに何ができるか、図書館等で情報を集めることができる。 ⑧選んだ生き物の生態を調べたり、専門家から話を聞いたりすることができる。	⑥身近な野鳥について本、インターネット、専門家に聞くなどして調べることができる。
情報の整理分析	情報を整理・分析する力	⑧フィールドビンゴを通してこれまで関わってきた生き物と環境との関わりについて整理することができる。 ⑨育ち方の順序に合わせて選んだ生き物の住む環境について整理することができる。 ⑩関わった生き物の棲む環境について調べたり飼育したりして学んだことを通して、自分たちにできることを考えることができる。 ⑪選んだ生き物に対して自分たちにできることについて、調べた情報を整理することができる。 ⑫他の生き物と比較したり、関係付けたりしながら自分たちができることについて考えることができる。	⑦仲間と情報交換しながら調べた結果を整理することができる。 ⑧専門家に疑問や課題について質問したり相談したりしながら調べた結果を分析することができる。 ⑨これまでの生き物との関わりについて地域の生き物の暮らしを総合的に捉えることができる。
行動	課題解決のために行動する力	⑬生育環境を整えるためヤゴトープやヤンマお誘いセットを設置することができる。 ⑭課題意識をもって生き物のすみかをつくることができる。	
まとめ表現	分かりやすくまとめ、表現する力	⑪関わった生き物のすみ環境について調べたり飼育したりして学んだことをまとめることができる。 ⑫自分たちが整えた環境を西田小の人に伝える方法を考えることができる。	⑩整理・分析した内容を絵や図を用いながらまとめることができる。 ⑪年間の総合的学習をふり振り返り、学んだことや自らの変容について他者に表現することができる。

第 3 学年

総合的な学習の時間

自然とともにくらし

単元計画

<外部人材・地域資源等>

・すぎなみ環境ネットワーク・JA東京
・杉並区立成田西ふれあい農業公園

課題設定

学習活動 1 学校の中の生き物を、興味をもって見付けることができる。(1時間)

学習活動 2 すぎなみ環境ネットワークの方にトンボの暮らしや生態について聞き、西田小のプールの環境について理解する。(2時間)

学習活動 3 身近な生き物に関心を持ち、問いをもつ。(1時間)

身近な生き物はどのような暮らしをしているのだろうか。

学習活動 4 生き物がすむ環境について調べるための学習の計画を立てる。(1時間)

----- つながり -----

理科 「自然観察をしよう」「植物をそだてよう」

社会 「わたしたちのまちのようす」

道徳 「ヌチヌグスージ(いのちのまつり)」

情報の収集

学習活動 5 選んだ昆虫のすむ環境について観察や図鑑等を活用し、調べる。(2時間)

学習活動 6 ヤゴ救出大作戦を行い生息数や種類を調べる。(2時間)

学習活動 7 ヤゴを飼育し、生態を観察・記録する。(3時間)

----- つながり -----

国語(図書) 図鑑の使い方を知る

理科 「こん虫をそだてよう」

地域 すぎなみ環境ネットワーク

情報の整理・分析

学習活動 8 フィールドビンゴを通してこれまで関わってきた生き物と環境との関わりについて整理する。(2時間)

水の中にはヤゴ以外にもいろいろな生き物がいるね。

学習活動 9 育ち方の順序に合わせて選んだ生き物のすむ環境について整理する。(1時間)

学習活動 10 関わった生き物のすむ環境について調べたり飼育したりして学んだことを通して、自分たちにできることを考える。(2時間)

----- つながり -----

地域 すぎなみ環境ネットワーク

まとめ・表現

学習活動 11 関わった生き物のすむ環境について調べたり飼育したりして学んだことをまとめる。(1時間)

身近な生き物は自然の中で関わり合いながら暮らしている。

行動する

学習活動 12 生育環境を整えるためヤゴトープやヤンマお誘いセットを設置する。(6時間)

----- つながり -----

国語「本で調べて、ほうくする文章を書こう」

地域 すぎなみ環境ネットワーク

課題設定

学習活動 13 これまでの取り組みをふり返る。(1時間)

学習活動 14 校内の土の中の生き物を観察し、たくさんの生き物同士が関わり暮らしていることに気付く。(2時間)

学習活動 15 自分たちにできることについて考える。(2時間)

「生き物がよりよく暮らせるような環境をつくろう」

学習活動 16 生き物がよりよく暮らせるようにするために学習の計画を立てる。(1時間)

----- つながり -----

理科 「動物のすみかを調べよう」

情報の収集

学習活動 17 校内の生き物について自分たちに何ができるか、図書館等で情報を集める。(3時間)

学習活動 18 選んだ生き物の生態を調べたり、専門家から話を聞いたりする。(2時間)

----- つながり -----

国語 「ありの行列」「インタビューをしよう」

図工 「トンボのヤジロベエ」

地域 研究者 すぎなみ環境ネットワーク

情報の整理・分析

学習活動 19 選んだ生き物に対して自分たちにできることについて、調べた情報を整理する。(1時間)

学習活動 20 他の生き物と比較したり、関係付けたりしながら自分ちができることについて考える。(2時間)

----- つながり -----

地域 すぎなみ環境ネットワーク 研究者

JA 農業公園

社会 「農家の仕事」 道徳「いただいたいのち」

国語 「食べ物のひみつを教えます」

まとめ・表現

学習活動 21 自分たちが整えた環境を西田小の人に伝える方法を考える。(2時間)

行動する

学習活動 22 生き物のすみかを作る。(6時間)

----- つながり -----

交流 ユネスコスクールネットワーク

地域 すぎなみ環境ネットワーク

課題設定

学習活動 23 地域の生き物の暮らしに視点を広げ、身近な野鳥の暮らしに興味関心をもつ。(1時間)

学習活動 24 身近な野鳥の暮らしについて調べ課題をもつ。(2時間)

身近な地域の野鳥はどのような暮らしをし、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか。

学習活動 25 身近な野鳥の暮らしと私たちの生活との関わりについて、課題を解決するための計画を立てる。(1時間)

----- つながり -----

道徳「ツバメの赤ちゃん」

情報の収集

学習活動 26 身近な鳥について調べる。(6時間)

・本、インターネットで調べる。

・フィールド調査をする。

・専門家から話を聞く。

----- つながり -----

地域 「すぎなみ環境ネットワーク」

情報の整理・分析

学習活動 27 仲間と情報交換しながら調べた結果を整理する。(1時間)

学習活動 28 専門家に疑問や課題について質問したり相談したりしながら調べた結果を分析する。(2時間)

学習活動 29 地域の生き物の暮らしを総合的に捉える。(2時間)

----- つながり -----

地域 「すぎなみ環境ネットワーク」

まとめ・表現

学習活動 30 整理・分析した内容を絵や図を用いながらまとめる。(4時間)

学習活動 31 総合の学習をふり返り、学んだことや自らの変容について他者に表現する。(3時間)

----- つながり -----

交流 ユネスコスクールネットワーク

道徳 「ふるさといいところさがし」

本時の授業デザイン（15 時間目／70 時間）

本時の目標

しぜんを守り、良い環境を作っていくために私たちには何ができるか話し合いを通して考える。

板書計画 / 学習シート計画 / 留意点

しぜんとともにくらし(2)

しぜんを守り、良いかんきょうを作っていくために
私たちには何ができるだろうか

これからどのようなことに取り組んでいきたいか考えよう

- 生き物がたくさんいる学校にしたい。
- 花を植えて生き物をたくさん呼びたい。
- 池のかんきょうをよくしたい。
- すみかを作りたい
- 生き物がたくさん集まる土をつくりたい
- うちの中の生き物をもっと知りたい

関わりたい生き物は？

・チョウ ・ダンゴムシ ・カブトムシ ・ミミズ…

これまでのふり返り

ヤゴ

ヤゴ救出大作戦

ヤンマおさそいセットづくり

カイコ

かんざつ

クワ

かんきょうビンゴ

ダンゴムシ

モンシロチョウ

ムカデ

土の中の生き物

ミミズ

グニ

アリ

クモ

評価規準と手だて

評価規準 課題を見付けろ力

- 話し合いを通して自分たちにできることを考える。

手だて1 導入でこれまでの学習を振り返り、取り組んできたことを表現させる。

A: 取り組んできたことを意欲的に表現する児童。

⇒本時の課題と関連して考えることができるよう教師が発言を価値付ける。

B: 取り組んできたことを表現する児童。

⇒意欲をもって表現することができるよう、児童の活動を担任が価値付ける。

C: 取り組んできたことを意欲的に表現することができない児童。

⇒ワークシート等を振り返り、具体的に児童が取り組んできたことを取り上げ振り返らせる。

手だて2 話し合い活動を通して、他者と比較しながら自分の考えを深めさせる。

A: 他者と比較しながら自分の考えをもち、根拠をもって自分の考えを伝えることができる児童。

⇒他者からの意見と比べながら、自分の考えを見直し、よりよい考えに至るよう促す。

B: 自分たちにできることを他者と比較しながら考えることができる児童。

⇒これまで関わってきた取り組みや生き物を教師やゲストティーチャーと振り返り、理科の学習との関連の中で根拠をもてるよう促す。

C: 他者と比較しながら自分たちにできることを考えることができない児童。

⇒グループのメンバーを配慮し、これまで関わってきた取り組みや生き物を教師やゲストティーチャーと振り返り、興味のある具体的な生き物を思い出させ、どのように関わっていけばよいか、理科の学習との関連の中で他者の考えと比較しながら自分の考えをもつよう促す。

学習の流れ

① 導入

◆これまでの学習を振り返る。

T:これまでどのような生き物と、どのような関わりをしてきたかな。ワークシートや画像ですぎなみ環境ネットワークの方と一緒に振り返りましょう。

C:ヤゴを救出してヤゴ池を作ったりお誘いセットを作ったりした。

C:カイコを育てて成長を観察した。クワも採ってきた。

T:これまでの取り組みから、私たちはこのような課題を作りました。

しぜんを守り、良い環境を作っていくために私たちには何ができるだろうか

◆学習の課題を確認する。

T:学習課題を基に、これから更にどのようなことに取り組んでいきたいか考えていきましょう。

◆課題に対して、私たちには何ができるか考える。

T:課題に対して私たちにどんなことができるでしょうか？自分の考えを書きましょう。

C:トンボを増やしたい。なぜならたくさん卵を産んでもかえらないと悲しいから。

C:チョウのすみかを増やしたい。なぜなら思ったよりチョウが少ないから。

C:ミミズのすみかを増やしたい。なぜならミミズはよい土を作るから。

◆グループで互いの考えを出し合い、自分の考えを深める。

T:グループで各自の考えを、理由を付けて発表し合ひましょう。仲間の意見を聞いて、疑問に思ったことや考えたことを伝え合ひましょう。

C:私はミミズがたくさん増えるようにミミズによい環境を作りたいです。なぜならミミズはよい土をたくさん作るので、ほかの生き物にも良いからです。

◆それぞれ関わりたい生き物を決める。

T:自分が関わりたい生き物を決めましょう。

◆今日の学習を振り返る。

T:今日は自然を守り、良い環境を作っていくために私たちには何ができるかを考えました。関わりたい生き物も決まりましたので、次回からは計画を作っていきます。

② 展開

③ 終末